2016年度 事業報告書

特定非営利活動法人シマフクロウ・エイド 2017年2月27日

2016年度事業報告

目次

はじめに		
各事業報告		
I保護・保全・支援事業		
1 シマフクロウに関する各調査、生息地パトロール		
1) モニタリング調査、生息地パトロール		
2) 繁殖確認調査		
3) 生息確認調査		
4) 調査パトロールのための募金活動		
2 補助給餌		
1) 補助給餌		
2) 補助給餌のための募金活動		
3 生息環境の保全		
4 ご支援ご協力		
Ⅱ普及・啓発事業		
1 環境教育		
2 人材育成		
3 広報		
1)対面による発信		
2)インターネットによる発信		
3)印刷媒体による発信		
4)メディアによる発信		

2016 年度 事業報告

2016年1月1日から2016年12月31日まで

特定非営利活動法人シマフクロウ・エイド

はじめに

シマフクロウ・エイドの活動は、現代表理事がシマフクロウの保護・調査に長年携わるなかで、次世代の担い手や、関係地域への普及啓発がない状況下での保護活動の継続を危惧し、環境の包括的保全を視野に、関係地域が主体となってシマフクロウをはじめとした野生生物の保護・保全が行われていく姿の構築を目的に、有志とともに 2008 年にNPO 法人を設立し現在の活動を展開するに至っています。シマフクロウの保護活動は、1984 年から国や研究者等によって始められ 1993 年から現代表理事も加わり、地道な活動の成果により個体数は漸増しました。しかし、生息地間が分断傾向なため、生息可能地も含めた保全が課題となっており、未だ絶滅危惧種のトップランクに指定されています。調査研究に携わる者の高齢化も深刻で、次世代の保護の担い手育成や普及・啓発の推進も重要な課題となっています。これらの課題を踏まえ、当NPOでは関係地域の理解や協力を推進していくことに焦点を当て、基盤となる調査・パトロール等の継続した取組みのほか、様々方法で普及啓発を推進しています。

シマフクロウの保護・保全の基盤となる各調査や生息地パトロールは、一昨年建設した 観察小屋や調査機材を活用しながら鳥への負担を軽減した調査を通年にわたり実施し、 本年も1月から取り組みを継続しています。

シマフクロウの繁殖を支援する補助給餌は、活魚購入代の 100%をおさかな寄付で賄いました。個人や法人、団体の皆様が、シマフクロウ保護を間接的に支援する方法として定着しつつあります。

シマフクロウをテーマとした環境教育「シマフクロウ学習」4年目の実施では、実施校における子どもたちの学習成果発表の機会などを通じ、地域住民や関係者の皆様にもシマフクロウの現状や課題について周知の輪が広がりました。

広報では、プロボノを活用しウェブサイト制作に取組み、第三者も含め組織の見直しを 行いました。活動報告会や会報など各場面では、シマフクロウの置かれている現状や課題を共有し、アンケートや意見交換において貴重なフィードバックを多数頂きました。

この報告書は、2016 年 1 月 1 日~12 月 31 日迄の活動についての概況をまとめ、お伝えするものです。

各事業報告

I 保護・保全・支援事業

シマフクロウの保護・保全活動を適切で効果的に進めることを目的に、既存の繁殖ペアのモニタリング調査や生息地パトロール、繁殖確認調査、生息の可能性がある地域における生息確認調査を1月から12月までのベ275日実施しました。この活動で得られた成果や課題は、環境教育や広報など普及・啓発の推進に活用しました。

1. シマフクロウに関する調査、生息地パトロール

1)繁殖ペアのモニタリング調査及び生息地パトロール

守りたい寄付、協賛金にて実施

釧路管内の1エリアで一昨年メスが入れ替わったつがいにおいて、給餌池に飛来滞在中の給餌量や繁殖行動等について24時間動画による記録方法で調査を行い、データの取得、抽出及び編集、記録する一連の作業を通年にわたり実施しました。2016年度の繁殖行動は確認されましたが、繁殖には至らなかった年のつがいのみの行動データを記録・蓄積することが出来ました。

また釧路管内の3エリアの生息地パトロールを定期的に実施し、環境の変化や天敵の有無、繁殖期の人の立ち入り等に注意を払いました。

1月から12月まで、合計240日1200時間実施しました。



モニタリング調査



繁殖行動の記録



生息地パトロール

ボランティアにて実施

2)繁殖確認調査

釧路管内の7箇所において、今年度の繁殖を確認す る調査を4月~6月までの5日間実施しました。

そのうち新たな1つがいの繁殖を確認することが 出来ました。



4

3)生息確認調査

はまなか農地水保全管理交付金助成にて実施

釧路管内で昭和40年代初頭の農地改革開始当時、シマフクロウの生息情報があった河川周辺において、現在の環境変化や生息確認を把握する踏査を一昨年実施し、2016年度も同エリアを中心に、春季と冬季に踏査や集音を中心とした生息確認調査を実施しました。



11月には農地周辺の河畔林付近において、日中に 地域住民によるシマフクロウの単独個体1羽の目撃 情報を受けました。移動分散中の若鳥と推定され、以 後周辺エリアにおいて集音や踏査を中心とした生息 調査を実施しました。合計30日実施し、本年も1月 から同調査を続けています。



4)調査パトロールのための募金活動

シマフクロウの保護・保全を進める重要基盤となる調査や生息地パトロールを応援する「守りたい寄付」を、ホームページ、SNS、会報、チラシ等で通年呼びかけを行い、合計 34 件 194,500 円が寄せられ、調査機材・備品代、生息地パトロールに係る車燃料代に全額充当しました。また、モニタリング調査への協賛金を募集し合計 9 件 69 万円が寄せられ、高額機材、備品、調査実施費に充当しました。

募金活動を通じて、絶滅危惧種シマフクロウの現状や課題を共有し、その延長にある私たちが暮らす環境とのつながりや環境保全について考える機会も推進しました。

2. シマフクロウへの繁殖支援

1)補助給餌

おさかな寄付にて実施

絶滅危機のシマフクロウへの緊急支援として、管理に携わる釧路管内の1給餌池において、補助給餌を年6回実施し180kgの活魚を個人・法人からの寄付で購入し専用給餌池に放流しました。給餌池のシマフクロウの利用状況は通年にわたりモニタリング調査を実施し、繁殖しなかった年のペアの採食状況のデータを取得し記録しました。

給餌池のメンテナンスとして、突発的な給水井戸の渇水、台風によるオーバーフロー、厳冬期の給餌場フェンス周辺の除雪などに都度対処し、給餌池の機能の保持や、シマフクロウの脅威となる外敵侵入の防御にあたりました。

法人設立の 2008 年から 2016 年 12 月までの給餌量は、累計 68 回 1940 kg となり、 巣立った雛は 10 数羽になりました。







給餌池メンテナンス



給餌池を利用するペア

2) 給餌のための募金活動

「おさかな寄付」募集を、ホームページやSNS、会報、イベント、活動報告会などを通じて行い、合計 47 件 231,022 円が寄せられ、シマフクロウが食べる活魚購入費に充当しました。

募金活動を通じて、絶滅危惧種シマフクロウの現状や課題を共有し、その延長にある私たちが暮らす環境とのつながりや環境保全について考える機会も推進しました。

3.生息環境の保全

1)植林地メンテナンス

はまなか農地水管理保全協議会助成により実施

シマフクロウの将来の生息地作りに向けて根付く植林を検証しています。釧路管内で 4 年前に植林した場所において、引き続き木々周辺の草刈や電気柵の手入れ、冬越し作業を 6 月から 12 月までに 11 日実施しました。実施にあたり、NPO法人えんの森やサポーター計 6 名にご協力をいただきました。鹿などの食害から木々を守るため設置している電気柵の効果をセンサーカメラで 4 月から 12 月まで定期的に調査し、ほぼ通年にわたり柵周辺で採食する鹿が記録され、春先の侵入では電気柵支柱が折られたことを確認しました。今年度は冬季の積雪が少なかったため食害は少ない傾向で、広葉樹の苗木は高さ約 1 6 0 cm \sim 1 7 0 cm まで成長し幹の分岐も進みました。



草刈り作業



電気柵の効果を検証



冬越し前の忌避剤塗付作業

4. ご支援ご協力

1)シマフクロウの保全エリアにおける冬季の除雪を、今年度も引き続き有限会社石橋組様にご協力をいただきました。

2) 釧路総合振興局森林室の立木伐採や間伐計画予定地に て今年度も引き続き現地で事前協議を行い、シマフクロウの 繁殖期への影響について注意を払っていただきました。

Ⅱ 普及・啓発事業

調査・パトロールなど保護活動で得られた成果や課題を、環境教育や活動報告会で還元し、シマフクロウや保護活動の現状や課題を共有し、参加者の皆さまとともに考える場としました。

1. 環境教育事業

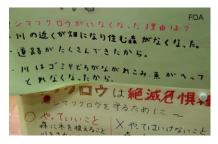
出前授業「シマフクロウ学習」 はまなか農地水管理保全協議会助成により実施

シマフクロウをテーマとした環境教育「シマフクロウ学習」を関係地域の小学校2校で9月と11月に各校各1回実施し計36名の児童が参加しました。身近な環境に生息する希少野生生物についてスライドや野外体験、ワークシートなどを通して「知り」、シマフクロウと自分たちが暮らす地域の自然環境とのつながりについて「自ら考える」時間としました。

学習の成果はさらに実施校において壁新聞やパワーポイントにまとめられ、文化祭や総合学習での発表を通じ、地域住民、関係団体等の皆様にも周知の機会となりました。学習の実施にあたり、浜中町立茶内第一小学校、浜中町立茶内小学校、浜中町教育委員会の皆様にご協力をいただきました。



FOA



屋内学習

屋外学習

子どもたちの学習成果発表

2. 人材育成事業

研修等の受け入れはありませんでした。

3. 広報事業

シマフクロウが置かれている状況や当活動の取り組みをわりやすく紹介し、活動の意義を伝え、関心や支援の輪を広げる以下の取り組みを行いました。

1)対面による発信

「活動報告会の開催」

旅費の一部助成:一般財団法人セブンーイレブン記念財団

当活動を紹介する「活動報告会 動画を見てみよう」を 4 月東京都、6 月浜中町、7 月札幌市の3か所で開催しました。昨年の主な取り組みとして、モニタリング調査や環

境教育、広報について動画やスライドでご紹介しました。

参加者からの質疑応答やアンケートにおいては、今後、他団体との環境保全の連携や普及・啓発の推進が益々重要になることを再確認させていただきました。異なる分野における保護対策のアイデアや既に取り組みが行われている道内の森づくりと生息地保全の連携など、その他示唆に富むご意見ご提案を頂き、今後の活動の参考にしていきたいと思います。







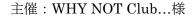
4月:地球環境パートナーシッププラザ(45名参加)

6月:浜中町総合文化センター(9名参加)

7月: 札幌エルプラザ(24名参加)

「チャリティイベント」

9 月に当活動を応援するチャリティーイベントを釧路市 鶴居村で開催いただきました。3回目の開催となる今年は、 当団体オリジナルの紙芝居を披露し、シマフクロウが直面 する課題や当活動の取組について紹介させていただきま した。その他バンド演奏、フリーマーケット、オーガニッ クランチ、バイオリン生演奏など多彩な演出で道内外 50 名の方に参加いただきました。イベント収益は、シマフク ロウの保護活動費として全額当団体にご寄付をいただき 補助給餌や調査費に充当しました。





2)インターネットによる発信 「ウェブサイトの制作」

ウェブサイト制作助成:認定NPO法人サービスグラント 制作費助成:一般財団法人セブンーイレブン記念財団

プロボノを活用し、新たなウェブサイトの制作を 6 月より開始しました。2008年設立当初に自主制作したウェブサイトの内容や機能の見直しを行い、第三者の皆さまとチームで組織の見直しに取組み、発信力を高め他の主体と連携や協働を促進するわかりやすく丁寧に伝えるサイトを目指しました。

現地見学、関係者へのヒアリング、マーケティング、制作などの各工程で相互に確認を行いながら制作を進め、2017年3月に完成となります。





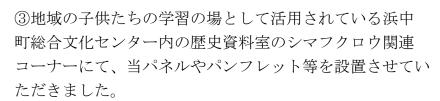
2015 年 12 月から当ウェブサイトにて会費や寄付のクレジットカード決済を導入し、2016 年度のお支払いで約 5%ご利用いただきました。

3)印刷媒体による発信

①サポーター限定で会報を隔月で発行し、2016 年 12 月で 85 号を発行しました。シーズン毎のシマフクロウの行動や 保護活動の様子、関連ニュース等をご紹介し、支援いただいているサポーターの皆さんへ一層の関心や理解の推進 に取り組みました。



②当活動を紹介するチラシを作成し、浜中町、札幌市、東京都内の関係機関等20箇所に設置協力をいただきました。





④地域団体等の広告がシマフクロウ保護の支援につながる Win Win 広告を作成し、 浜中町内の関係機関 5 カ所に掲示協力をいただきました。

4) メディアによる発信

聖教新聞、北海道新聞、北海道ネーチャーマガジン・モーリーにより取材及び執筆依頼を受け、4月、9月、12月に当活動を紹介いただきました。

以下はサポーター、寄付の推移、支援状況となります。

支援状況

2016年1月1日~12月31日

	合計数	合計金額
サポーター	146 (-24)	778, 000
寄付	131 (-102)	1, 232, 026
フェイスブック	1680(ファン数) (+119)	
ブログ	122000(閲覧数)(+43203)	





2016 年度 寄付を頂いた法人・団体の皆様

アドニス・インタナショナル(株)

gooddo 株式会社

公益財団法人知床財団

公益財団法人日本鳥類保護連盟釧路支部

認定 NPO 法人霧多布湿原ナショナルトラスト

NPO 法人えんの森

WHY NOT..Club

古本募金ハピぼん

2016 年度 ご助成

認定 NPO 法人サービスグラント 一般財団法人セブン・イレブン記念財団 はまなか農地水管理保全協議会

2016 年度 技術支援

有限会社石橋組(冬季除雪) 株式会社モンベル(商品の特別価格購入)

2016年度 モニタリング調査への協賛金を頂いた皆様 (順不同・敬称略)

星野伸一、門田清司、門田ゆかり、笹生博夫、桧川直子、山本新、匿名3名様

以上

団体概要

組織名称

団体名称:特定非営利活動法人シマフクロウ・エイド

設立 : 2008 年 6 月

役員

代表理事 菅野正巳 環境省委託シマフクロウ保護調査員

副理事 金澤裕司 羅臼町教育委員会

理 事 不破理江 ロシア語通訳

監事 山﨑貞夫 山﨑林業(株)代表取締役

スタッフ

事務局長 菅野直子

事務局スタッフ

川村義春

関上伸一

吉田俊彦

寺嶋秀之

三浦春美

沿革

2008 年 NPO 法人シマフクロウ・エイド設立

釧路管内の2エリアでペアのモニタリング、生息確認調査実施。以後継続。 おさかな寄付で1給餌池に補助給餌を開始。以後通年継続。

寄付・会員の募集開始。会報「コタンコルカムイ」発行開始。

ブログ「カムイの森だより」開始。

講演会「教えて!シマフクロウ」、保護調査員養成セミナー開催。

環境教育「シマフクロウ博士になろう!」」を霧多布湿原センターと共催。 エコツアー募集開始(会員限定)。

2009年 地元造船所と共同で巣箱を作成し、環境省の巣箱かけ事業にて山林に設置。 保護調査員養成セミナー開催。

講演会「教えて!シマフクロウ・住まい編」開催。

環境教育「調査体験・バンディング!」を霧多布湿原センターと共催。

- 2010年 「浜中シンポジウム・海の生物多様性を考える」にパネル出展。
- 2011年 北海道新聞・北のみらい奨励賞 受賞。

「活動パネル展」開催(2011-2013年。2014年からはイベント内実施) 「シマフクロウの現状と保護の取組み講演会」にパネル出展。

帝京科学大学にて当活動について講演。

- 2012年 フェイスブックで広報開始。
- 2013年 出前授業「シマフクロウ学習」実施開始。以後毎年実施。

スライド・トーク「地域で守るシマフクロウ in 東京」開催、以後毎年開催。 将来の生息地作りを検証する植林を実施。定期メンテナンスを継続。

行政、NGO、公益財団、自治体より講演講師受託。

活動パネル展開催。参加型展示・大型パネル絵本を新たに組入れ。

2014年 調査の深化と教育への活用を目的とした観察小屋を建設。

JICA より希少野生生物保護をテーマに講師受託。

釧路地区地域子ども育成指導者研究協議会より講師受託。

地元のイベントにパネル出展。

エコツアー:一時終了。

2015年 観察小屋での調査整備作業、調査開始。

地元のイベントにパネル出展。参加体験プログラム実施。

「スライド・トーク in 浜中、in 東京」開催。

2016年 24 時間動画によるペアのモニタリング調査実施。

「活動報告会 in 浜中、in 東京、in 札幌」」開催。

ウェブサイトリニューアル。

N P O法人シマフクロウ・エイド 〒088-1364 北海道厚岸郡浜中町茶内若葉 2-36

電話・ファックス:0153-65-2183

Email:aid2960@nifty.com URL:http://fish-owlaid.eco.coocan.jp/